



あの日を忘れず、備えを進める

東日本大震災から 15 年目を迎えます。

震災直後、私は生まれ故郷の岩手県陸前高田市に向かい、津波ですべてが流されてしまった街の姿を目の当たりにしました。その時の衝撃や悲しみは、今も忘れることができません。

この経験から、大きな災害が起きた直後は、市や消防などの公的な支援「公助」のみならず、一人ひとりの行動「自助」や地域の助け合い「共助」が命を救うと学びました。だからこそ、ふだんの準備がとても大切です。

私は、こうした自助・共助の力をさらに伸ばすため、公約として「防災士を毎年 80 人養成する」ことを掲げました。市内 116 の自主防災会すべてに防災士を配置できるよう、今年度から 3 年間で 240 人の育成に取り組み、防災士が地域の防災活動を支える存在として活躍できるよう、支援してまいります。

また、市としても災害対策本部本部員会議の訓練を毎年行っています。これは、災害発生時を想定して、私を本部長とする災害対策本部の幹部が集まり、実際の災害対応と同じ流れで意思決定を行う訓練です。

今回は、人命救助で最も重要となる発災から 3 日以内を想定し、「各部署が取り組むべき初動対応の確認、判明している情報をもとに必要な措置を協議・決定する」をテーマに実施しました。

訓練のたびに、「その場で何が起きるかを想像しながら動くことの大切さ」を強く感じております。引き続き、先を見据える想像力と迅速な対応力を磨き、これから起こり得る災害に備えて、防災体制を強化してまいります。



令和 8 年 1 月 30 日 上尾市災害対策本部本部員会議訓練の様子

市長 畠山 稔